

特集 “自ら学べ”プロジェクト

神町中学校では、「“自ら学べ”プロジェクト」を推進していると聞きましたが、どんな中身なのですか。教えてください。

（水辛 学くん）



「“自ら学べ”プロジェクト」がスタートしたのは、平成31年1月8日です。校長先生が、当時の生徒会役員と給食を食べながら話をしていたときに、「勉強ができる学校にしたい」という発言がありました。どうやったら「勉強ができる学校」になるのか。その結論が「自ら学ぶ習慣」をつけることだということになりました。では、どうやって「自ら学ぶ習慣」をつけていけばよいのか。そこでまず考えられたのが、「宿題を出し

ません」ということです。先生たちが宿題をむりやり提出させても、何も得るものはないのではないかと考えたのです。むしろ、「宿題を忘れた」「居残りだ」「宿題に追われて寝られない」「プレッシャーがかかる」など、弊害の方が多いのではないかと考えたわけです。この通称「宿題なしプロジェクト」を職員会議に提案したところ、賛否両論あり、なかなか結論が出ませんでした。「今以上に勉強をしなくなるのではないか」という先生もいましたが、「神中生ならできる。生徒を信じてやってみよう。」ということになり、「“自ら学べ”プロジェクト」は、歴史的な1歩を踏み出したのです。

生徒の8割は、「宿題なし」を好意的に受けとめていましたが、「ダラダラする時間が増えた」「何をしてもいいかわからない」「不安・心配だ」などの声も聞かえてくるようになりました。年度が変わって4月、2・3年生の保護者を対象に、「宿題なし」についてのアンケートを行いました。結果は、賛成が3割、反対が3割、どちらとも言えないが4割でした。『睡眠時間を確保できるようになったし、ながら勉強や答えの丸写しもなくなった。』

「自分から勉強しないので、親が毎日言って勉強している。宿題があった時は、親が言わなくてもやっていた。何のために勉強するかわからない子は勉強なくなり、受験が不安です。』『帰宅後の時間を有効に使う事のできる素晴らしいプロジェクト。しかし、現状は「学校でやっているから大丈夫」と言って、ゲーム、ひたすらゲーム。がっかり。〇をつけたいのだが・・・』など多数の意見が寄せられました。「理念は賛成だが、現状や結果を考えると？」という意見が多く寄せられ、家庭学習を支援するためのプリントや実力を確認するための小テストの導入、家庭との学習面での連携などの対策など、「“自ら学べ”プロジェクト」は新たな局面を迎えることになりました。（to be continued）

宿題をなくしたことへの反応はどうだったんですか？

（大丈夫 加奈さん）

